

伐採・造林一貫作業システムの説明会

〔東信署〕11月26日、東信森林管理署と長野県林業センターの共催で「伐採・造林一貫作業システム」の説明会を行いました。

林業の低コスト化に向け、東信地方では初めての取組として、高性能林業機械を使用して枝条を整理し、すぐにカラマツコンテナ苗を植栽する一貫作業システムを実施し、また、攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業の「コンテナ苗を利用した低コスト再造林技術の実証研究」として、林業センターをはじめとする試験研究機関により、コスト分析等の調査を行いました。

説明会には、上小・佐久地方の林業事業者や林業関係者等約70名が参加し、午前中は、浅間山国有林で作業システムの説明、コンテナ苗の植付道具や植栽方法の説明後、埼玉式と林業センター式のニホンジカ防護ネットの設置状況を視察しました。

午後は、会場を室内へ移動し、林野庁、森林総合研究所、林業センター、信州大学の担当者から全国の一貫システムの動向、実証研究の状況や今回の調査結果、当地域での留意点等について、またコンテナ苗生産者の立場として長野県山林種苗共同組合から育苗の現状が説明されました。

その後、中村森林整備部長の進行で討論が行われ、林業事業者から多くの質問・意見が出され、熱心に意見交換が行われました。

この新しいシステムに対する関心は高く、東信地方において「伐採・造林一貫作業システム」についての理解を深める説明会となりました。



埼玉式ニホンジカ防護ネット設置の様子